

淀川の魅力ある景観マップ



景観マップ3の範囲
高槻市、島本町、大山崎町
枚方市、八幡市、久御山町、京都市



P25-P26

景観マップ2の範囲
大阪市、摂津市、高槻市、
守口市、寝屋川市、枚方市



P23-P24

景観マップ1の範囲
大阪市



P21-P22



範囲案内図

1 新伝法大橋 1969年完成 (L=約360 m)

2 伝法大橋 1942年完成 (L=約765 m)

3 大塚切れ洪水碑
 1917年に高槻市の大塚で堤防が決壊し、高槻市から下流の大阪市まで甚大な被害をもたらしました。浸水した水を排水するために西淀川区の堤防で「わざと切れ」が行われました。
 写真提供: 大阪市西淀川区役所

4 海老江干潟

5 淀川大橋 1926年完成 (L=約724 m)

6 海老江緊急用船着場 距離標左岸5.1km付近 パース長約70m/エプロン長約13.0m

7 花川干潟

8 大淀干潟

9 なにわ淀川花火大会 1989年から開催 2006年に平成花火大会から改名
 毎年8月初旬に、淀川河川公園西中島地区と十三野草地区、大淀野草地区一体を主会場として開催しています。なにわ淀川花火大会運営委員会により、企画・実行され、地元商店、市民等の寄附により運営されています。
 写真提供: なにわ淀川花火大会運営委員会

10 新北野緊急用船着場 距離標右岸6.3km付近 パース長約60m/エプロン長約7.0m

11 新十三大橋 1966年完成 (L=約792 m)

12 十三渡し

13 十三大橋 1932年完成 (L=約681 m)

14 14 梅田スカイビル
 写真提供: 積水ハウス梅田オペレーション株式会社 撮影: 2018年5月16日午前10時58分
 展望台から見える夕日は絶景として根付いています。施設内では、日没時刻を掲示する等の自然景観を楽しむための工夫がなされています。また、その特徴的な建物形態からランドマークになっています。

15 高層ビル群
 うめきた2期など魅力的な開発が進む大阪都心部の対岸から望む風景は、静寂な水面と大都市の賑わいのコントラストが美しい淀川ならではのものです。
 撮影: 2017年12月23日午後6時49分

16 中津のヨシ原

■ 淀川の漁業



※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同時発行の電子地形図(地理院地図ズームレベル14標準地図)を複製したものです。(承認番号 平30情模、第1242号)
 ※この地図は、国土地理院長の承認を得て、作成したものであり、第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければなりません。

■干潟

ヨシ原は、水の流れを緩やかにするとともに、外敵から身を守るための隠れ家になるので、様々な生物が生息しています。また、ヨシは水の汚れの原因となるリンや窒素を吸着することで、水をきれいにする働きがあり、淀川の自然を守っています。

写真提供:大阪府漁業協同組合



淀川での漁は、現在も十三干潟などの河口域で行われています。天然うなぎやベッコウシジミ、ズズキ等が採れ、大阪の食文化を支えています。

17 十三干潟

十三干潟は、淀川で最大の面積を持つ数少ない自然の干潟で、潮干狩りに訪れる人で賑わいます。



写真提供:大阪府淀川区役所

18 淀川アーバンキャンプ (2015年から開催)



写真提供:淀川河川事務所

都会にしながら淀川の自然を感じられる取り組みです。淀川の魅力を満喫できる、水辺のアクティビティや自然体験プログラムなどを楽しむ人々の活動は、都市部の新たな景観です。

19 新淀川大橋

上流側 1964年完成 (L=約794 m)
下流側 1969年完成 (L=約813 m)

20 柴島干潟

21 長柄橋

1983年完成 (L=約656 m)



写真提供:大阪府建設局

中央部の橋はニールセンローゼ術というアーチ形の橋が採用されていて、浪速の名橋50選に選定されています。夜間にはライトアップが実施されており、広大な淀川の風景とマッチしています。

22 旧毛馬第一閘門

1907年完成



撮影:2018年9月24日 午後1時15分

明治時代に実施された治水工事の際に淀川と旧淀川の船の往来を確保するために設置されました。重要文化財の旧毛馬第一閘門と伊丹空港に向かう飛行機とのギャップに、淀川沿川の移ろいを感じます。

23 毛馬橋

1960年完成 1979年拡張完成 (L=約150 m)

24 春風橋

1981年完成 (L=約105 m)

25 飛翔橋

1984年完成 (L=約103 m)

26 都島橋

1956年完成 1979年拡張完成 (L=約145 m)

27 源八橋

1936年完成 1971年拡張完成 (L=約201 m)

28 桜宮橋

1930年完成 (L=約189 m)

29 造幣局周辺のツツジ

明治時代初頭、衰退していた大阪を蘇らせるため、大久保利通は大阪に遷都しようと蔵屋敷の一部を造幣局にしたとされています。現在でも有名な桜の通り抜けはこの頃から行なわれています。



撮影:2017年4月30日午前10時36分

大川(旧淀川)沿いは、造幣局をはじめ桜が有名ですが、ツツジの咲く季節(春~梅雨頃)も散策の時期としては適しており、川沿いの心地よい雰囲気を感じられます。

30 川崎橋

1978年完成 (L=約129 m)

31 天満橋

1935年完成 (L=約151 m)

32 八軒家浜防災船着場・川の駅はちけんや

33 観光船(八軒家浜船着場周辺)



撮影:2018年4月1日午前11時00分

八軒家浜船着場は、平安時代には瀬戸内と淀川を結ぶ拠点、江戸時代には京都と大阪を結ぶ三十石船が発着する拠点として栄えていました。現代でも、水の都大阪の拠点として、賑わいをみせています。

34 令和OSAKA天の川伝説 (2009年から開催)

(令和2年3月 一部、時点修正)

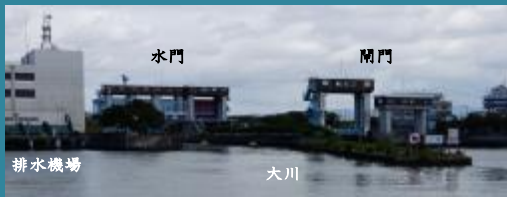


撮影:2017年7月7日午後7時53分

大阪市中を西流する大川は、かつては「天満川」とも呼ばれ、その川面に満天の星を映す様子は「地上の天の川」のようでした。現在、七夕の夜に、幻想的な景観を再現するイベントが開催されています。



1 毛馬閘門・毛馬水門・毛馬排水機場



普段、淀川の水は水門から大川に流れています。高潮や洪水の際は、大川の水位が上がるため、排水機場より大堰より下流に排水する仕組みになっています。淀川舟運の定期航路の見所の1つです。

2 淀川大堰

1984年完成



撮影:2017年5月28日午後7時5分

通常、塩水の遡上防止と生活水の確保のため堰きとめています。洪水時は、下流に直接放水されます。等間隔で連続する塔が水面に反射する様子は美しく、時間の変化により、様々な表情を見せてくれます。

3 毛馬緊急用船着場

距離標左岸10.5 km付近
バース長約60m/エプロン長約7.5m

4 淀川河川公園(毛馬地区)



淀川下流域の広大な河川空間の遠方にそびえる大都市のビル群は、摩天楼のようです。

5 柴島緊急用船着場

距離標右岸10.3km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

6 柴島浄水場

7 赤川ワンド

距離標左岸11.0km~11.4km付近

8 おおさか東線淀川橋梁

1929年完成
(L:約615m)



第二次世界大戦の戦火を耐え抜き、おおさか東線の開業に向けて複線化に着手する2013年まで、地域住民の生活道路として利用され、「赤川鉄橋」の通称で親しまれています。

9 豊里ワンド

距離標右岸11.8km~12.0km付近

10 菅原城北大橋

1989年完成、2014年無料開放
(L:約1,356m)

11 城北ワンド

距離標左岸11.4km~13.0km付近



撮影:2018年6月9日午後0時頃

城北公園付近に位置し、天然記念物・イタセンパラの生息場所となるなど、多様な生態系を形成しています。ワンドの環境を守るための活動等により、環境の保全がなされています。

12 平田の渡し (1970年廃止)

13 豊里大橋

距離標右岸14.6km付近

14 大桐ワンド

距離標左岸14.8km付近

15 下島ワンド

16 取水塔(一津屋取水場)



取水塔は、淀川の水を取り入れ、浄水場へ供給するための施設です。私たちが、淀川の水で暮らしていることを感じさせてくれます。

17 宮ノ下渡し (1954年廃止)

18 庭窪ワンド

距離標左岸16.4km~17.2km付近

19 庭窪浄水場

20 鳥飼大橋



写真提供:守口市

府道2本、近畿自動車道、大阪モノレールの4本の橋で構成されており、交通の大動脈としての役割を担っています。近辺に群生する葦は秋に色付き始め、淀川の四季を感じられる景観です。

21 佐太緊急用船着場

距離標左岸17.6km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

22 鳥飼の渡し (1975年廃止)

23 鳥飼ワンド

距離標右岸18.8km~19.2km付近

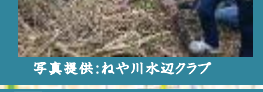
24 鳥飼緊急用船着場

距離標右岸19.6km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

26 鳥飼仁和寺大橋



写真提供:ねや川水辺クラブ



28 淀川まるごと体験会



写真提供:豊履川市

25 淀川わいわいガヤガヤ祭 (2012年から開催)



撮影:2018年6月3日午後1時頃

淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会により、毎年初夏頃に開催されます。タイヤチューブと伐木で手づくりしたイカダに体験乗船、淀川クルーズ、水上オートバイ、キッズボートは淀川の魅力が満喫できるイベントです。

1987年完成 (L=688m)
※自転車の利用料金は10円

周囲の景観とよく調和し、優れた機能美を持ち合わせた斜張橋です。
有料道路として完成され、地域から「100円橋」という通称で親しまれています。

29 点野緊急用船着場 距離標左岸21.3km付近
パス長約70m/エプロン長約10m

30 淀川新橋 1973年完成

38 枚方水位観測所



撮影:2018年9月23日午後0時頃

枚方水位観測所は、新しい淀川の象徴として古くから生育する「ヨシ」のように大地に根ざして天に向かって伸びて行く姿を表しています。
ここで観測された水位を基に避難情報などが出され、住民の命と生活を守っています。

39 カヌー体験



撮影:2017年9月10日午前10時

淀川河川公園(枚方地区)には広大な芝生広場を有し、淀川の流れを感じながら散歩ができます。
カヌー体験ができる日もあり、他にも、この地区ならではのイベントが開催されています。
⇒関連番号: 41

淀川の渡し

自動車の普及により、淀川の各所で、橋梁が開通しましたが、それまでは、住民の主要な交通手段として兩岸を結ぶ渡し船が淀川の各地で往来していました。

⇒関連番号: 12 17 22 40

40 枚方(大塚)の渡し(郵便屋の渡し)(1930年廃止)



枚方の三ツ矢には枚方地方で最も利用の多く親しまれた渡しがあり、郵便物も対岸の国鉄高槻駅まで運ばれていました。

41 枚方宿みなど五六市 (2017年から開催)



旧枚方宿の町屋沿いを使用し毎月第2日曜日に開催されている「枚方宿くわんか五六市」と連携し、淀川河川公園内において「みなど五六市」が同日開催されています。

42 枚方緊急用船着場

距離標左岸26.0km付近
パス長約70m/エプロン長約1.2~5.2m



緊急用船着場は、大規模地震等の災害が発生した際に河川の応急復旧や緊急物資の代替輸送経路などに活用できる施設です。
⇒関連番号: 3 5 21 24 36 42

2017年9月からは、船着場を活用し、舟運の定期運航(八軒家浜~枚方)も行なわれています。

43 43 鍵屋別館



写真提供:枚方市

鍵屋資料館の隣にある鍵屋別館は、4階建てで、カフェや雑貨等の店舗が入っています。上階からは、淀川の自然景観を眺望できます。

44 44 ひらかたパークの大観覧車



大観覧車は、最頂部約80mで、ランドマークとして親しまれています。観覧車からは、雄大な淀川の景観を楽しむことができます。また、舟運等の水上交通からも望めます。

淀川舟運

自動車や鉄道がない時代、舟運は物資輸送の最も重要な手段で、淀川を人や物が行き交いました。江戸時代には、大阪の八軒家と京都の伏見が三十石船によって、結ばれていました。この淀川の船旅の風景が「都名所図会 淀川」に描かれています。



また、船が航行する位置を乗客に知らせたとされる三十石船唄は、大阪府無形民俗文化財に指定されています。

←左図
都名所図会 淀川
(国際日本文化研究センター)

31 くわんか発祥地碑



「くわんか船」は、淀川を往来する三十石船に近づき、酒や食べ物を売る小舟をいい、発祥とされる柱本の淀川堤防上に発祥の地碑がたてられています。現在では、観光船が八軒家から枚方まで定期運航するなど、淀川舟運の活性化が図られています。

32 三島江ワンド 距離標右岸23.2km

33 芥川合流部



船上から見た合流部の景観。青空、山並み、みどり、水面のコントラストが美しく、芥川の奥行きを感じる自然景観です。

34 水防活動



写真提供:淀川左岸水防事務組合

水防団は、大雨や高潮等の水害から命や財産を守るため、日々活動されています。淀川左岸水防事務組合主催の最大規模の訓練は、三矢地先で行われる「淀川筋・防潮筋合同水防訓練」で、約400人の方々が参加されています。

35 枚方大橋 1930年完成 (L=689m)

36 大塚緊急用船着場 距離標右岸26.0km付近
パス長約70m/エプロン長約10m

37 大塚切れ



写真提供:高槻市

大正6年(1917年)に発生した暴風雨で、淀川が増水し、芥川堤防が決壊し、淀川本川の大塚堤防が崩壊しました。濁流は、町を次々に飲み込んでいき、大被害をもたらしました。

距離標左岸20.6km~20.8km付近

市民団体等により、清掃活動等の自然環境の保全に取り組まれています。また、近隣の小学校では、自然学習が行われる等の取組みが行われています。

体験会等の市民団体等を主体とする活動が継続的に行われる等、水辺環境の保全・再生の取り組みが活発に行われています。

1 淀河川公園(大塚地区)



写真提供:高槻市

広々として心身ともにリラックスできる公園で、シロツメグサなどのかわいらしい野草が群生する春の季節は特にオススメです。美しい川流も見られ、どこかの観光地にいるような錯覚にとらわれます。

2 磯島取水口

3 唐崎ワンド

距離標右岸24.2km付近

4 前島の法面



写真提供:高槻市

毎年春に、上牧地区から柱本地区付近の淀河川敷では、セイウカラシナが黄色い花を咲かせます。河川敷では、散歩やサイクリング、写真を撮る人などが訪れ、穏やかな春の日を楽しんでいます。

5 前島渡し

6 牧野ワンド

距離標左岸30.8km付近

7 鶺鴒のヨシ原



写真提供:高槻市

淀川で一番広いヨシ原です。初春にはヨシ原の保全と害草・害虫の駆除、不慮の火災防止などを目的にヨシ焼きが行われ、毎年多くの観光客が訪れます。



鶺鴒に生えるヨシは、雅楽で用いられる楽器・箏の吹き口として珍重され、摂津国の名所を絵画と文章で紹介した地誌である「摂津名所図会」にも記載されているように、江戸時代には貢物として献上されていました。

8 樋之上ワンド

9 樟葉ワンド

10 山崎(橋本)渡し

豊臣秀吉による架橋を最後に、代わって現在の八幡市とた渡しです。西国街道から石河内へ渡る主要なルートである宮の川港として賑わいました。

11 山崎津跡

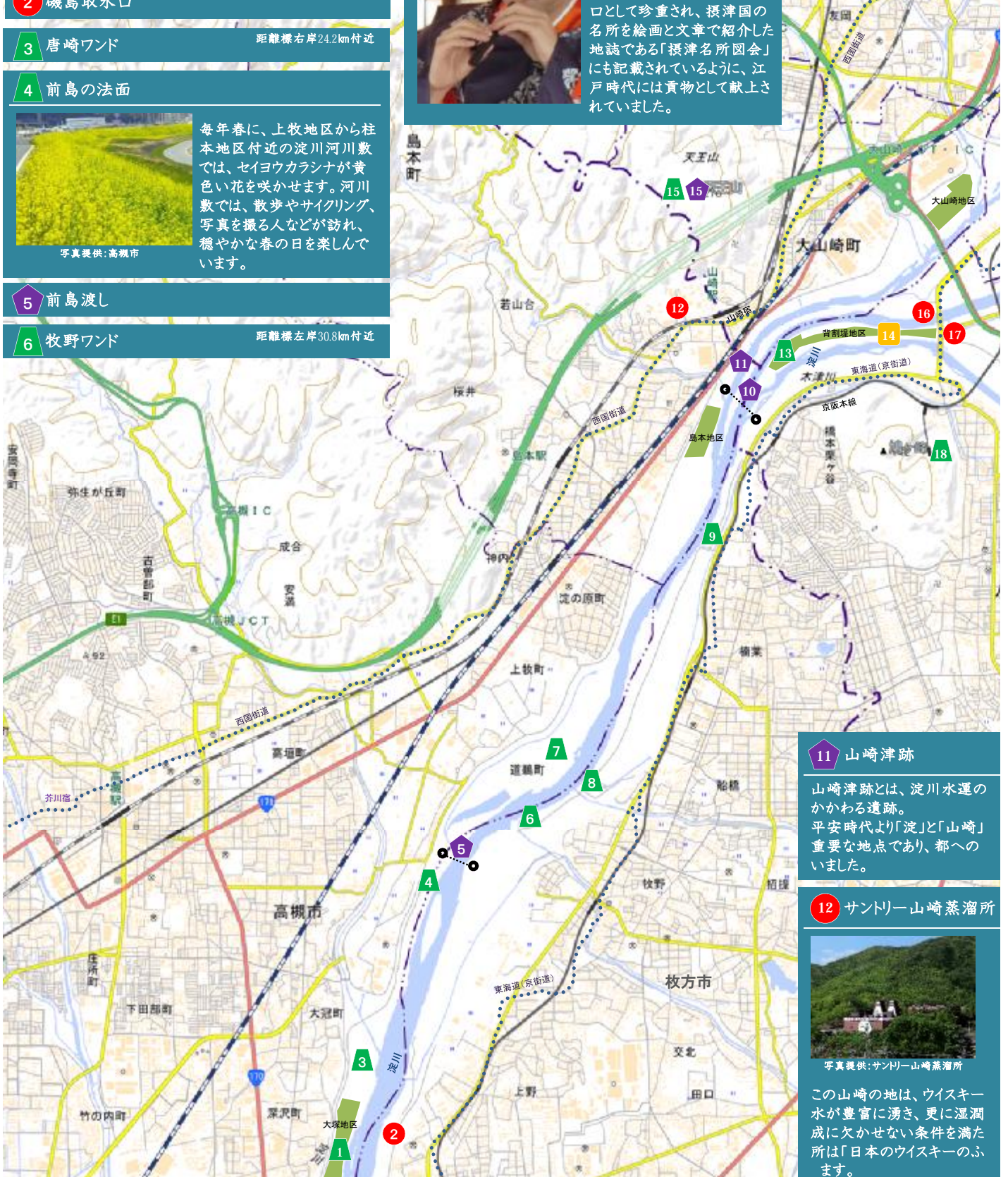
山崎津跡とは、淀川水運のかかわる遺跡。平安時代より「淀」と「山崎」重要な地点であり、都へのいました。

12 サントリー山崎蒸溜所



写真提供:サントリー山崎蒸溜所

この山崎の地は、ウイスキー水が豊富に湧き、更に潤潤成に欠かせない条件を満たす「日本のウイスキーのふるま」。この山崎の地は、ウイスキー水が豊富に湧き、更に潤潤成に欠かせない条件を満たす「日本のウイスキーのふるま」。



距離標左岸31.4km付近

距離標左岸33.4km付近

山崎橋が架橋されなく
対岸の島本町を結んで
清水八幡宮への道であり、
ったことから石清水八幡



15 天王山からの眺望



写真提供: 大山崎町

淀川に一番近い山である天王山からも淀川(三川合流)を眺望できます。

1582年6月2日の本能寺の変から11日後、羽柴秀吉が天下取りの足がかりとなった山崎の戦いの古戦場が、

淀川とともに窺え、明智光秀が陣取した地の利が見て取れます。

16 御幸橋

初代1913年完成
2代目1930年完成
淀川御幸橋 2003年完成
木津川御幸橋 2010年完成

17 さくらであい館

2017年完成



写真提供: 八幡市



写真提供: 淀川河川公園管理センター

淀川河川公園背割堤サービスセンターであるさくらであい館は、淀川三川合流域に立地しており、地上25mの高さから周辺の景色を一望できます。サイクルートの休憩地点やイベント会場としても、多くの人が訪れる場所となっています。

18 石清水八幡宮からの眺望



日本三大八幡の石清水八幡宮の展望台からは、背割堤やさくらであい館を眺望できます。また、本殿等は、江戸中期の貴重な建築物として、2016年2月、国宝に指定されました。

19 淀大橋

1932年完成
(L=約267m)

20 久御山排水機場

21 巨椋池排水機場

22 宇治川大橋

1966年完成
(L=約546m)

23 巨椋大橋からの眺望(朝の川霧)



撮影: 2017年11月27日午前7時30分頃

宇治の河原は、季節と時間で様々な表情を見せてくれます。川霧の下に、かつて巨椋池が広がっていたことを想像させてくれます。

24 三栖閘門

1929年完成
1964年閉鎖



撮影: 2018年3月30日午前11時21分

観月橋から三栖閘門までの築堤によって生じる宇治川と濠川との水位差を解消し、船の航路を確保するため、整備され、経済・文化の発展に大きく貢献しました。1998年からは、十石舟が復活し、桜の季節をはじめ、賑わいを見せています。

13 背割堤



写真提供: 一般社団法人 八幡市観光協会

大正時代、木津川の付け替え工事に伴ってできた木津川右岸堤防の一部です。全長約1.4kmの圧巻の桜並木です。当初は松並木が植えられており、「山城の橋立」とも呼ばれていましたが、害虫被害が多く、昭和53年に旧建設省によって、ソメイヨシノ等に植え替えられ、現在の景観となりました。桜の咲く季節には、祭りも開かれ、観光客で賑わいます。⇒関連番号: 14

14 背割堤さくらまつり

2018年に
八幡桜まつりから改名



写真提供: 京都府

散歩しながら、腰を下ろしてつろぎながら、桜のトンネルをくぐりながら、様々な角度から桜並木の景観を楽しむことができ、多くの観光客で賑わいます。

要である山崎津(港)に

は、南方・西方へ通じる
様々な物資が運ばれて

サントリーの創業者である鳥井信治郎氏は、ウイスキーの熟成に欠かせない条件を満たしていた島本町山崎を蒸溜所の建設の地に選び、大正12年(1923年)に建設に着手しました。づくりに適した良質な地下な気候はウイスキーの熟成に最適です。ここ山崎蒸溜所として親しまれてい